

◎新・人間革命 雄飛の章

さまざまな苦難もあるでしょう。しかし、地道に信心をしていくならば、時が解決してくれます。真剣に題目を唱えていけば福運がつき、自身が成長していきます。ゆえに、現実がどんなに厳しくとも、希望を捨ててはいけません。御本尊への大確信をもってもらいたい。皆さんには、何があっても妙法がある。この永遠不滅の法がある限り、人生の大勝利者になれないわけがない。

(『新・人間革命』第30巻 [上] 286～287 ページ)

◎随筆 人間世紀の光 108

私は、この言葉を、後継の青年部に託したい。

「信心は、行き詰まりとの永遠の闘争である。

仏と魔との闘争が信心だ。それが“仏法は勝負”ということである」

(聖教新聞 2006年3月16日付)

◎勝利の経典『御書』に学ぶ 富木尼御前御返事

現実の人生には、あれやこれやと、苦しく辛いことが多いかもしれない。しかし、妙法の信心を貫く人は、その苦悩の泥沼に足を取られて沈むような必要は断じてないのです。じめじめなんかしないで、からりと心を軽くして、前を向くのです。喜び勇んで、朗々と、題目を唱え抜いていくのです。題目を唱え抜く生命自体が、煩惱即菩提であり、すでに勝利なのです。苦悩を見下ろし、勝っているのです。

(『勝利の経典「御書」に学ぶ 15』77 ページ)